

# ぎかい



2014.10.17

小国町議会だより 第122号



東関部屋の施設訪問

## 平成25年度 決算を認定

主な  
内容

- |             |          |
|-------------|----------|
| ■ 9月定例会概要   | 2～3 ページ  |
| ■ 決算審査特別委員会 | 4～5 ページ  |
| ■ 一般質問      | 6～10 ページ |
| ■ 委員会レポート   | 11 ページ   |
| ■ おらもおくに町民  | 12 ページ   |

特別会計・企業会計 認定

10億円を割り込む。

平成26年度

9月定例会

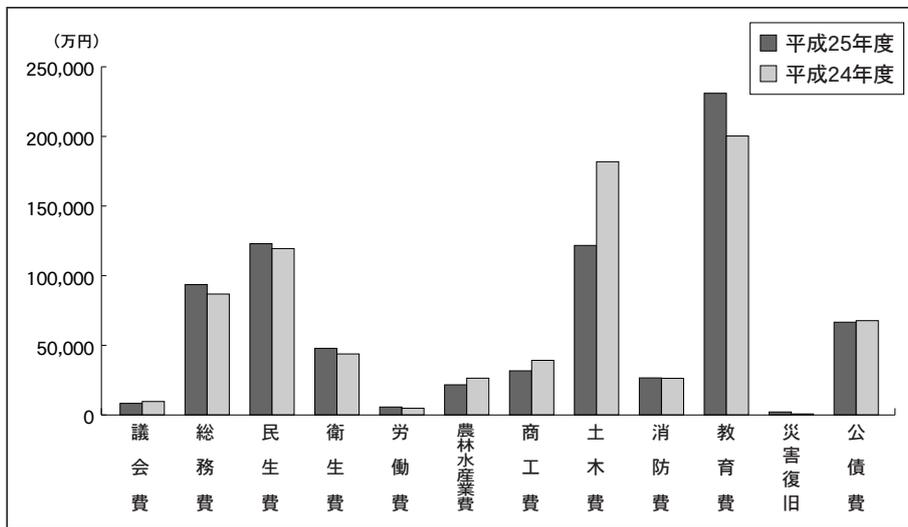
9月4日(木)～11日(木)



完成した小国小学校グランド周辺

9月定例会は、9月4日より8日間の日程で開かれた。25年度各会計決算、26年度一般会計補正予算、特別会計、病院事業会計の補正予算、財産の取得、人事案件など23件が審議され原案のとおり可決した。なお、25年度各会計決算は、決算審査特別委員会に付託され慎重な審議が行われた後、本会議において全員賛成で認定された。一般質問は、5名の議員が行い、当面する諸問題を町長に質問した。本会議の詳細は、インターネット録画をご覧ください。

一般会計歳出決算額内訳



一般会計補正予算

総額2億1709万円の追加補正予算を可決

\*民間保育士等処遇改善事業補助金

\*水痘予防接種委託料

\*多面的機能支払事業委託料

\*コミュニティ道路整備事業補助金

\*消防ポンプ庫建設事業

\*その他

特別会計補正予算

\*国民健康保険事業特別会計

出産育児一時金の増額

\*介護保険特別会計

介護給付費準備基金積立金等

企業会計補正予算

\*病院事業会計

人件費に要する経費等の増額

財産の取得

町営バス更新取得

1024万円(税込)

工事請負契約

\*町道松岡黒沢峠線改良(黒沢橋下部工)工事請負契約

7884万円(税込)

山和建設(株)

\*公共下水道事業処理場中央監視制御設備等更新工事請負契約

8143万円(税込)

(株)東芝 東北支社

平成  
25年度

一般会計決算 77億9,887万円他

町税収入 対前年度比5.5%減

各会計歳出決算(歳出額)

	平成25年度(円)	平成24年度(円)	比較(%)
一般会計	7,798,874,998	8,070,463,297	96.6
簡易水道事業特別会計	40,991,485	29,417,153	139.3
国民健康保険事業特別会計	803,990,179	819,476,409	98.1
部落有財産特別会計	1,875,646	1,423,587	131.8
下水道事業特別会計	372,936,209	338,131,524	110.3
訪問看護特別会計	70,627,328	71,108,047	99.3
介護保険特別会計	958,655,551	917,531,690	104.5
後期高齢者医療特別会計	95,767,487	94,425,130	101.4
合計	10,143,718,883	10,341,976,837	98.1

平成24年度の課税所得減の影響を受け、町税収入が10億円を割り込む結果となった。今後一層、行政事務の簡素化・合理化を図るとともに事業効果の検証を徹底し、経済性、有効性、効率性、優先度に配慮した予算執行が必要と考える。

各企業会計決算(収益的収支)

	事業収益(円)	事業費用(円)	純利益(円)
病院事業	913,728,420	1,014,838,288	△101,109,868
水道事業	90,954,491	84,890,007	6,064,484
工業用水道事業	82,843,080	85,223,062	△2,379,982
老人保健施設事業	304,213,163	317,170,251	△12,957,088

各事業会計にあつては、水道事業を除いて赤字の決算となっている。病院事業にあつては1億をこえる赤字額となっている。老人保健施設を含め、対策が必要である。

人権擁護委員

推薦について意見を求められ適任と認めた。

\*鈴木 恵子氏(再任)  
大字緑町3丁目7番地

請願

\*手話言語法制定を求める意見書の提出に関する請願  
〔採択〕 全員賛成

\*集団的自衛権行使に反対する意見書提出についての請願

〔不採択〕 賛成1 反対8  
\*米価下落等に関する意見書提出方請願  
〔採択〕 全員賛成

意見書

\*「手話言語法」制定を求める意見書  
\*米価下落歯止め等に関する意見書  
\*集団的自衛権の行使について国民的な合意と慎重な対応を求める意見書  
↓小国町議会として独自の意見書を提出した。

臨時議会

8月11日臨時議会が開かれ台風8号による被害の災害復旧に関する補正予算を可決した。

補正額 3217万円

## 総務企画課

**Q** 地域振興室の小玉川振興事務所の取り組みは地域と関わりを持つ事業が地域課題として抽出されたものは何か。

**A** 地域の連帯意識がなくなれば人口減少につながる。このため、集落機能の維持保全策などの仕組みづくりを、小玉川地区自然教育圏整備促進協議会と連携しながら小さな拠点づくり活動の中で進めている。

当地区の生活面において買い物、移動、除雪などは、今すぐに解決を要するものではないが、今後10年後を見据え、地域課題としてとらえて検討している。



旧小玉川小中学校に設置された振興事務所

## 町民税務課

**Q** 自主防災の組織率が山形県下でも下位である。組織率向上のためにどのような取り組みをしているか。



幸町地区の防災訓練

**A** 置賜総合支庁と共催で組織率向上のためのワークショップを開催した。町中心部の組織率の低さが全体に影響している。本年度、防災訓練を通じて町中心部において機能が発揮できる防災組織体制を検討し組織力の向上に努めていく。

## 地域整備課

**Q** 河川愛護デーの参加人数は何人か。愛護デーだけの対応では河川維持に限界がきている。ゲリラ豪雨などへの対応が望まれるがどのように考えているか。

**A** 今回の参加人数は470名であり、8河川13カ所を愛護デーで作業している。8河川のほとんどが県管理であるため、県に対して河床整地などをお願いしているが管理が広範囲にわたるうえ、2年続きの豪雨災害対応もあり、行き届かない面もあるようだ。



河川愛護デーの作業の様子

## 産業振興課

**Q** 人・農地プラン作成事業について、執行率が低かった要因はなにか。

**A** これまでプランを作成した地区は8地区である。平成25年度は青年就業給付金などの該当者がい

る地区を優先に行った。また、全体的に農地の出し手はいるが、受け手が見つからないことと、プランを作成したいという地区が少なかったため、執行率が低くなったものである。



人・農地プランの更なる推進が望まれる農業

— 教育委員会 —

**Q** スポーツクラブYuiにまだ支援を行っているようだが、いつになったら自立できるのか。

**A** 助成金は、5年をめぐりにしており、今年が最終年である。最近NPO法人格を取得したと聞いている。現在自立に向けてYui内部で検討している。

— 健康福祉課 —

**Q** 灯油購入費助成事業の執行率が37.4%と低いのはどうしてか。また、申請しても断わられた人がいると聞いているがその理由は。

**A** 3月に入ってから県の制度化で、町では3月議会後の事業実施となったために執行率が伸びなかった。

この事業は町民税非課税世帯が対象であったため、483件の申請のうち100件近くが該当しな

かったものと考えられる。

— 町立病院 —

**Q** 国民健康保険の一人当たり診療費は県下でも上位にあるが、一般会計からの病院への繰入が年々増加している。診療科目も充実している中、地域住民への周知はどのように取り組んでいるのか。

**A** 院長が中心となり地域医療懇談会を6回ほど開催し、病院の診療科目等の周知に努めている。また「ほつと通信」の発行などで情報の発信に努めている。



病院主催の地域医療懇談会

決算審査特別委員会報告書

9月4日、本委員会に付託された平成25年度の小国町各会計の決算審査について、5日、8日及び9日の3日間にわたり関係課長等の出席を求め審査を行った。その結果、人口減少、少子高齢化が各方面に影響を及ぼしていることから事業執行にあたっては、これまで以上に各課の連携を図り、総合的、複合的にすすめられるよう求めるとともに、次の意見を付して認定すべきものと決したので、小国町議会会議規則第41条の規定により報告します。

- 1 少子化にともなう学校統合や人口減少、高齢化により集落維持機能の低下が課題となっている。対策のモデルとして取り組んだ小玉川振興事務所の活動を検証し、町全体の集落支援、地域づくりを進められたい。
- 2 町中心部における自主防災組織の組織率が低い。引き続き自主防災組織の組織化、消防団の充実・強化の取り組みを進めるとともに、高齢化が進む本町に対応した防災のあり方について検討されたい。
- 3 本町における経済雇用状況は依然として低迷が続いている。これまでの雇用対策から一歩ふみこんだ産業創出に向け、農業、観光交流等各分野においてスピード感をもって取り組まれたい。
- 4 病院事業会計、老人保健施設事業会計において、一般会計負担金が増額となっている。厳しい経営状態が続いているため、経費削減とともに新たな事業展開を模索するなど、健全化に向けてなお一層の取り組みに努められたい。

平成26年9月11日

決算審査特別委員会

委員長 小 関 和 好

小国町議会議長

伊 藤 重 廣 殿



齋藤 弥輔

## 人工透析の 投資計画・採算計画は

### 人工透析について

**齋藤** 電興診療所閉鎖に伴う診療科の増設に加えて、人工透析医療への投資が将来の町財政に及ぼす影響も明らかにならないままに医師、職員の研修が始まっている。いろいろな問題点を議論したうえで、事業展開をすべきと考えるが、人工透析への投資計画、採算計画、病院経営の指針としてきた病院改革プランはどのように考えているのか。

**町長** 今年度、医師確保にめどが立ち、看護師、臨床工学技士も合わせて研修に派遣した。なお、任用した嘱託医師から、8月31日をもって退職したい旨の退職届が出され受理した。今後、医師確保に取り組み、看護師、臨床工学技士の研修は続行する。

町財政に及ぼす影響も明らかにならないままにとの指摘だが、医師確保が最大の課題であり、速やかに研修に派遣し、先行して取り組んだ。投資計画では環境整備として、透析機器の購入、施設整備が必要になる。採算計画には患者数等の見積

もりと、規模に応じた医業費用を見込む必要がある。人工透析部門単体での黒字化を基本に取り組んでいきたいと考えている。現在行っている月額2万円の通院交通費助成の総額500万円の削減効果も見込める。

病院改革プランにおいては現在人工透析を実施している状態ではないので、盛り込んではいない。

**病院事務長** 投資計画として透析用ベッドと透析用監視装置が定価で約970万円、透析用の精製水を製造する機器が1350万円となり、仮に3台の透析ベッドを導入した場合は約4800万円で5台であれば約6900万円になる。さらに、下水道法などにより除外設備を設けての排水が必要であり、これらの設備に1300万円が見込まれ、新たな施設改修等が発生する場合もある。

採算計画では患者の年間医療費が国民健康保険加入者の場合、約600万円、21名全員を対象とした場合、単純計算で1億2600万円の医業収益になり、様々な経費等を積算すると、医

業費用の合計は約7265万円となるが、現段階では患者数が確定していないのでその数値、対応するスタッフの数により左右される内容である。

### 過年度分損益 留保資金は

**齋藤** 一般会計からの繰入金は、昨年が2億7500万円、今年は3億円と増え、さらに、赤字分を過年度分損益留保資金で補填しており、本来の過年度分損益留保資金の使用目的である医療機器等の更新時に使えない状態が予想されるかどうか。

**町長** 減価償却費の留保資金であり、それだけで医療機器を整備するものではない。

### 退職した嘱託医師の 給料・町長の責任は

**齋藤** 今回4ヶ月で退職した医師の給料や諸経費は今回の補正予算で支払うつもりか。今回の医師雇用に対する責任は町長にあると思うかどうか。

**町長** その支払いは既決予

算で執行させていただいた。

### 送迎を手厚く

**齋藤** 現在の患者に対する送迎などを手厚く支援することは考えていないのか。

**町長** 昨年4月から通院交通費の助成を1万5千円から2万円にさせていただいた。一番大事なのは高齢化する患者にとつてこの小国町で、この小国病院で透析できることと思っている。

**齋藤** 人工透析は小国病院での診療ができれば通院の負担の軽減にはなるが、慎重に医師確保、事業計画、予算計画などしっかりとした状態でのスタートを希望する。

### 公用車について

**齋藤** 白い森株の社長として業務は公務として考えているのか。白い森株の社長業務に公用車を使用しているのか。

**町長** 町長として社長に就任している。朝のミーティング等、必要なつど公用車を利用している。



小関和好

## 踊りでひとつになる 「小国音頭」民謡流しについて

### 民謡流しに関して

**小関** 町民の声により、8月17日に新町60周年を祝い「小国音頭」民謡流しが復活された。

今回は、有志からなる実行委員会主催で行われ400人近い人たちが参加した。

当初の趣旨の一つである子どもたちに「小国音頭」を継承するという目的は、87名の小学生の参加により少なからず達成されたと考えている。何よりも、子どもから年配者、障害をもった方たちまで同じステージで同じ踊りを踊ったということに大きな意義を感じた。

古い昔から踊りは、様々な形で今日まで続いてきた。踊りは間違いなく文化である。子どもたちにふるさとの踊りを伝えていくのは、我々大人の役目と考える。

それが町の元気づくりになり経済効果まであれば大変意義のある祭りと考えているが、町長並びに教育長の考えを伺う。

**町長** 今回の民謡流しが実施されたことは、小国町を元気づける役割を充分果たしたものと評価している。

小国音頭を唄えない、踊れない世代が増えている事実は、残念な状況である。こうした状況の中で行われた今回の民謡流しが、次世代への文化の継承という点でも意義があったと承知している。小国音頭が誕生した背景や意義、歌詞に込められた町民の思いなどを、今後受け継いでもらいたいと思っている。

町としては、担当課が実行委員として参画したが、実施までの準備期間が短期間であったことなど、民謡流し復活に際しての諸課題があったと報告を受けている。

今後とも町民が一体となって躍動できるイベント等の開催について、関係機関と連携して取り組みたいと考えている。

**教育長** 子どもたちが地域の催しや行事に参加するこ

とは、成長していく過程において、人間としての「生きる力」や豊かな「人間力」を身に付けていくうえで、大変貴重な体験学習の一つと考えている。このたびの催しについては、子どもたちが地域行事への参加や町民との交流、異年齢の人々

と関わりを持てる場として、教育的にも良い機会であったと思っている。このたびの機会も含め、教育的な視点から子どもたちが、地域の様々な文化等と触れ合い、伝承と交流が出来る学習環境づくりの推進に努めていきたい。



「小国音頭」民謡流しの様子

## 空き家対策について



本間 義信

### 空き家の現状と 今後の対策・活用 について

**本間** 空き家の現状と、今後の対策をどう考えているか。高齢者のシェアハウスや地域でのデイスービスとしての活用方法などがあるのではないか。

### 空き家の再利用を 図り増加の抑制が 必要と考えている

**町長** 平成25年度に調査を実施したが、第一段階として各地域でアンケート調査を行い、地域の視点から空き家の問題把握を行った。

アンケートで、空き家があることで発生している問題点について聞いたところ、「雪による倒壊の危険」について、全40地区のうち13地区から指摘されている。その一方で、「問題なし」としている地区も11地区あった。実態調査の第2段階として、個別に現地調査や周辺の聞き取りを行い、空き家

の管理状況や老朽度、再利用の可能性などの調査を実施した。

その結果、本町には空き家が65棟あり、そのうち、倒壊の危険がある、あるいは既に倒壊している建物が11棟あったが、その一方で、なんらかの改修を必要とするものの、居住可能な建物が52棟、80%を占めている状況であることが明らかになった。

今後、空き家は増えていくことが予想されることから、倒壊等の危険がある建物への対応とともに、空き家の再利用を図り、空き家そのものの増加を抑制することが重要と考えている。

今後の対策については、老朽化した空き家への対応と、空き家を増やさないことも含め、資源として有効活用するという両面があると考ええる。本町においても居住可能な空き家が相当数あるが、個人等の所有物件なので、利活用の仕組みづくりを検討する必要があると認識している。

今後、国の施策も数多く打ち出されるものと思われるので、こうした情報を的確に把握し、十分に検討を加えたうえで、本町の取り組みに活用していきたい。さらに、利活用推進で具体的な提案をいただいたが、空き家を活用した高齢者

や子育て世帯の生活支援策の一案として承りたい。なお、子育て世帯への貸付などでは、すでに民間レベルで取り組まれている事例も聞いているので、こうした情報もふまえながら、今後の空き家対策に活かしていきたいと考えている。



利活用に向けて改修中の空き家



遠藤和彦

## ふるさと納税をもっと充実しては

**産業振興や故郷ファンを増やすにはどうするか**

**遠藤** 県や市町村でもふるさと納税制度による寄付額は増えており、返礼特典として贈る特産品を充実させるなど、各自治体とも知恵を絞っている。小国町でのふるさと納税額は、2012年には70万円（12件）、2013年には30万円（12件）で県内でも下位である。制度充実を追い風に制度の一層の活用を図り、財源の確保のほか産業振興や故郷ファンの増大など、地域活性化につなげたらどうか町長の考えを伺いたい。

**東京郷人会等でPR**

**町長** ふるさと納税制度に対する、本町のこれまでの取り組みとしては、町のホームページに掲載のほか、県と市町村で共同運用している電子申請システムの活用を図り、PR、周知に努

めている。また郷人会等の集いの場でもPR活動を行っている。ふるさと納税の寄付の状況については、平成25年度は延べ12件、総額34万円であり、制度創設年度の平成20年度から平成25年度までの6年間では、延べ77件、総額414万5千円であった。寄付をいただいた方には、お礼状と町の広報紙を毎月送付し、寄付金については、まちづくりの各種事業に大切に使用させていただいている。

**ふるさと納税と地域の活性化をどう考えるか**

**遠藤** ふるさと納税を通じて小国の特産品等、生産者が潤う仕組みづくりが大事ではないか。

**創意工夫による新たな特産品開発が必要**

**町長** 制度の趣旨は趣旨として尊重しつつ、町の産業

振興と情報発信、観光PRという観点から、今後においては、「ふるさと納税制度」を積極的にそして有効に活用していきたいと考えている。寄付額に応じた特典としての返礼品の設定を行うことも一つの手法であるが、既存の特産品に限らず、町内宿泊施設の利用助成券を返礼品として、実際に小国町に足を運んでいただき、小

国を見て、体験し新たな小国ファンになっていただきたい、新たな特産品の開発にもつながるよう、できる限り生産者、販売者等が意欲的に取り組んでいただける仕組みづくりについて検討していきたいと考えている。観光大使や、ふるさと出張所長等に積極的に情報を提供し、PR活動を推進するなど検討していきたい。



小国の特産物を返礼品に



小林 嘉

## おぐに白い森(株)に民間活力を! 人口減少に歯止めを!

**町と白い森(株)の関係は**

**小林** 町づくりに対し「おぐに白い森(株)」はどのような位置づけにあるのか。

**町発展の大きな役割を担う**

**町長** 本町の多様な地域資源の活用と他産業との連携や企業化の促進、雇用の創出、町民所得の向上など町発展のため大きな役割を担っている。

**町長の社長兼務はなぜか**

**小林** 町長の代表取締役や副町長の取締役就任は、行政主導のイメージが強い。他の役員8名が取締役就任直後辞任したと聞くが、民間活力導入の考えを否定しているように見える。白い森(株)への指定管理のあり方も見直すのか。

**社長兼務は**

**経費の削減**

**町長** 第3セクターの管理経費の節減と事業の公共性

を図るため、5月29日代表取締役に就任した。

これによる経費節減は、年間約4百万円程度と想定している。白い森(株)は公共施設の受託管理や事務受託、地域からの雇用の安定的確保に取り組んできたが、今後この根幹の部分は変わらない。

**人口減少の歯止め策を早く**

**小林** 人口減少が著しく、昨年1年間の人口動態は198人の減少、死亡等の自然減が96人、町外転出が102人であった。

働き盛りの年代を含む町外転出者が多いのは問題だ。転出者の歯止めになる雇用創出や他市町からの移住者の受け入れ施策など、早急に具体的な施策を打ち出すべきではないか。

**人口減少は**

**国全体の課題**

**町長** 人口減少対策は一つの政策や施策だけでとらえるものではなく、多様な施

策の総合的な推進が必要。第4次小国町総合計画・後期基本計画の重点課題として、「人口減少社会への確実な対策と人口増をも目指した戦略的・体系的な施策の展開」を設定し、課題解決に結びつく4つの重点プロジェクトを推進している。まだ十分な取り組みと云えないものもあるので、国・県の動きや、その施策展開

とも歩調を合わせていく。

**町内・町外の先進地に学ぶ**

**小林** 総花的なプロジェクト推進のみでなく、交流の拡大や移住者受け入れなど、具体的に実践している先進的な地域に学び、盛田町政独自の考えを打ち出すべきである。



交流の町づくり・人口の増える町に

# 委員会 レポート

Committee Report

## 総務厚生常任委員会

### 消防・防災・救急救命研修会

「想定外のことはいつても起こり得ると想定しておくことが重要である」ことから、総務厚生常任委員を対象に消防・防災・救急救命の研修会を行った。

■ 期 日

平成26年8月27日(水)

■ 講 師

西置賜広域消防小国分署  
舟山孝夫分署長

#### ■ 研修概要

- ① 命を守る地域防災力の強化
- ② 小国町消防団の現況
- ③ 西置賜管内の消防団活動
- ④ 機能別消防団員及び機能別消防分団の概要

⑤ AED装置を使った救急救命の実習



AED装置による救命講習

## 研修報告

### 小国町議会運営委員会

#### ■ 視察研修

■ 期 日

平成26年8月5日(火)

■ 視察先 宮城県蔵王町

#### ■ 視察概要

議会活性化の取り組みについて、先進地である宮城県蔵王町議会を視察した。蔵王町議会は、通年議会の導入、議会基本条例の制定、議会報告会の開催など、議

員自ら主体となって議会の改革に取り組んでいる。小国町議会の活性化は喫緊の課題であり、今回の視察研修は学ぶべき内容ばかりであった。



蔵王町議会での研修の様子

### 議会広報特別委員会

#### ■ 研修

■ 期 日

平成26年7月22日(火)

#### ■ 講演

演題「読まれ親しまれ議会活動が伝わる 議会報の基本と編集技術」

#### ■ 講師

広報・編集コンサルタント  
芳野 政明氏

#### ■ 研修概要

山形県町村議会議長会主催の第31回町村議会広報研究会が開催され、レイアウトの基本や表紙制作の留意点等について講演を聞いた。また、他市町村の広報紙から学ぶことも多く、今後の議会だよりの作成に活かしていきたい。

### 西置賜行政組合議会

#### 行政視察

■ 期 日

平成26年7月24日(木)

～25日(金)

#### ■ 視察先

宮城県登米市  
岩手県大船渡市

#### ■ 視察概要

近年、震災や豪雨災害といった大規模な災害が相次いで起き、関係機関との連携や地域住民への情報伝達の在り方などが課題となっている。

平成23年3月に発生した東日本大震災から3年余りが経過し、当時の教訓と復興の様子をつかがいなが

ら、尊い命を守るため何をすべきかを聞くことができた。大船渡地区では、防災無線やFM放送を利用し災害や道路情報など、迅速に出来るだけ広く情報を提供している。また、消防団のポンプ車にも位置の判る機器を搭載し、刻一刻と変化する災害現場において消防団員の安全を確保しながら災害対応できるよう配慮されていた。

視察の途中、随所にまだ爪痕が残る被災地をめぐり、いち早い復興と視察で得た教訓を我が地域の安全安心に生かしたいと改めて感じた。



盛土工事が行われている陸前高田市

# おらも おぐに町民

町の人から  
ちょっとひとこと



## プロフィール

氏名 佐藤忠明  
年齢 五十歳  
住所 小国町宮の台  
コバレントマテリアル  
(株)勤務

**Q 大宮子易両神社例大祭奉納稚児行列の実行委員会事務局お疲れ様でした。イベントを終えた感想は？**  
「何とか終わった。」です。準備期間が短かったためいろいろな方にご面倒やご迷惑をおかけし、申し訳な

く思っています。

一人でできる祭事ではないので、地域のつながりの大切さを改めて感じ、今後大事にしていきたいと思えます。また、大宮子易両神社例大祭の祭事として小国町の皆さんに認知していただけるように、そして次世代につながるようになっています。

今回の開催は再来年になりますので、しっかり準備して小国町の繁栄をお祈りする祭事ができればと思っています。

**Q 雅な衣装を着て華やかな行列でしたが、だれでも参加できるのですか？**

4歳児、5歳児、保育園でいいますと年中さんと年長さんであれば、誰でも参加できます。町外に住んでいるお子さんも大歓迎です。

**Q 趣味は犬の調教とのことですが？**

以前はドッグトレーナーを目指しましたが、今はただの犬好きです。

**Q 大震災後の被災地で、「被災した動物を保護するボランティア活動をされているとのことですが？」**

震災直後、石巻と福島動物保護施設で活動しました。今、飼育している犬2頭は福島施設で生まれた

兄妹です。

昨年は小国町で「犬と猫と人間と」動物たちの大震災」の自主上映会を開催しました。

これからもできる範囲でお手伝いさせていただきたいと思っています。



大宮子易両神社の稚児行列の参加者

次は12月定例会です。  
傍聴においでください。

議会に対してのご質問、ご意見をお寄せください。

議会事務局(62)2448

## 編集後記

■この度の御嶽山の噴火、広島土砂災害など、日本の各地で激甚な災害が発生し、多くの方が被災され、尊い命が失われております。被災された皆様に、心よりお見舞いを申し上げますと共に、亡くなられた皆様のご冥福をお祈り申し上げます。

■このコラムを担当するときは、いつも災害のすぐ後となり、羽越水害を乗り越え、災害の少ない町へと復興された先輩方の努力に感謝するばかりである。

■当町の自主防災組織の組織率は、県下でも下位にある。災害は、「忘れたころにやってくる」ものではなくなった。危機意識を持つて自主防災の組織化を進めなければと考えている。

■稲刈りが終盤を迎えた。去年の在庫が30万トンもあるということである。農家の経営は、厳しさを増している。皆さんの消費拡大に努めましょう。

小関(記)

### 発行責任者

議長 伊藤 重廣  
議会広報特別委員会

委員長 齋藤 弥輔  
副委員長 小関 和好  
委員 遠藤 和彦  
小林 嘉